



こんにちは 府會議員
さこ祐仁 です

2007年8月26日発行 No.45
日本共産党北地区委員会
432-3261
上京生活相談所813-2117

**8月15日終戦記念日に訴え
日本共産党は戦争反対・憲法9条を守るためがんばります**

8月15日は、62回目の終戦記念日で、日本軍国主義による侵略戦争と植民地支配が敗北した日です。そして、戦後日本の出発点は、憲法9条にこめられた「二度と戦争はしない」という誓いでした。

しかし、安倍政権がすすめる、憲法9条を変えアメリカと肩を並べて海外で戦争する国づくりの動きが、加速しています。過去の侵略戦争を美化する歴史観をかかげる異常な集団・「靖国」派が政権の大半を占める事態です。改憲の手続きを定めた「国民投票法」の

強行をはじめ「戦後レジームからの脱却」を旗印に改憲を政権公約にかかげてきました。

わたしは、家族と一緒に8月12日に鹿児島県の知覧特攻基地跡、いまの平和会館を訪れました。私の息子と同年代の16歳から22、3歳が大半と言う青年が「母国のために喜んで身をささげろ」との最後の決別文を残して出撃し、いのちを落としています。「母国のために身をささげろ」瞬間に身の毛がよだつ思いがしました。この母国とは国家権力。天皇制政府そのもの。ここに安倍首相の求める「美しい国」

「戦後レジームからの脱却」の本質を感じたからです。

この青年たちはさぞ無念であったろう。人が人の命を奪うと言う戦争の残酷さ、おろかさを感じて、そして後世へ伝えることを、そして戦争という行為を今後、絶対に犯しては成らないと新たに思いました。

アメリカ議会の下院は本会議で、「従軍慰安婦」に強制性はなかったとする「靖国」派の主張を批判し、安倍首相に公的謝罪と歴史的責任の受け入れを求める決議を

ほぼ満場一致で採択しました。これは安倍政権の外交路線が国際的にも通用しないことを明確に示しています。

決議に先立ち自民、民主の国會議員44人をふくむ「靖国」派が、米紙ワシントン・ポストに「従軍慰安婦」の強制性を否定する意見広告を掲載し、米国内外で批判をあびました。

こういう人たちには国の舵取りをまかすことはできません

私は、くらた共子市会議員と出町枳形で「反戦・平和を85年間つら抜いた日本共産党だからこそ、戦争反対、憲法9条を守ろう」としっかりと訴えることができると終戦記念日に訴えました。

**つれづれ
ブログ**

らに、ガソリン代の急激な値上げ。色いろと考えさせられながらの帰鹿となりました。

家族全員で8月10日から14日まで鹿児島の実家へ。船に乗るまでは交通事故で名神高速が通行止め。1号線を利用して大阪南港まで行ったが、通常なら1時間半ぐらいでいけるのに大渋滞で6時間以上かかりました。車に頼るの弱点。さ

鹿児島に着くと、子どもたち「雨男の本領を発揮」と言われる。それまでの快晴が曇天へ。「おかげで涼しくなったけど」との喜びの声も。小京都といわれる知覧の武家屋敷へ。家並みが周りの山々とマッチしているのが落ち着ける。

平和の鐘をつく

待賢学区の盛林寺で「全戦没者追悼法要」が営まれました。

待賢学区9条の会は戦争を二度と繰り返さない決意を込めて平和の鐘をつく会を催しました。私も参加し、半鐘を撞かしていただきました。この半鐘は戦時中、鉄が不足したときに没収されそうになったが、取りに来た要員がたまたま1人で来て重たくて運べなかったのが「また後で来る」と言ったきりこなかったのが残っているとのこと。

